

❁ 3TW「相談援助実習」(第6期実習)

・実施期間：11月28日(月)～12月25日(日)

(この期間内に、各学生約15日間)

「大人の階段上る」学生たち

総合福祉学科 学科長・3年担任 磯野 博

昨年12月、3年総合福祉学科は、学生時代最後の実習に臨みました。これは「社会福祉士」受験資格の取得に必須の、本格的な「相談援助」の実習です。

思い返せば3年前、本学の門戸を叩いた学生たちは、まだよく分からないままにも異口同音に「相談援助の仕事をしたい!」と言っていました。その仕事の実際を肌で感じる実習だったと思います。実習先も、特養以外に社協や小規模多機能ホームもあり、多彩でした。

実習巡回に行くと、実習指導者様に必死に付いて回りながら、施設内外の関係者との調整などに奔走する学生の姿を目の当たりにしました。個別支援計画の立案では、介護過程とは異なる「相談援助の視点」を見出すことに苦悩する姿も見ることができました。改めて、「彼らは、本当に、この仕事がしたいんだなあ…」ということを感じた次第です。

実習も終盤になると、更に一皮剥けた学生の成長した姿を見ることができました。皆、実習指導者様からの評価も上々であり、**将来のキャリアデザインを具現化するための確実な自信**を持ってたと思います。

卒業まであと数か月、私たち教員がしてあげられることも少なくなってきました。もう「大人の階段上る」(プロフェッショナルへの道を邁進する)学生たちを見守ることしかできないのかもしれない。

おそらく人生最後の学生生活、より中身が濃く、思い出一杯になるよう、一緒に日々大切に歩いていきましょう!



「人とのつながり」の重要性を再確認した第6期実習

3年総合福祉学科 藤原 愛

昨年の12月、3年総合福祉学科は約15日間、相談援助実習に取り組みました。私は、はじめて「袋井市社会福祉協議会」で実習を行わせていただきました。

社協の実習では、社協の機能や収支、袋井市の概要をはじめ、共同募金や福祉教育、ボランティアセンター、生活自立相談センター等の事業内容を講義で説明を受けました。また、実際にボランティアセンターの広報の掲示板づくりをしたり、ふれあい・いきいきサロンの内容を企画し実施したりと、全体を通して充実した実習内容となりました。

中でも一番の収穫は、「人との出逢い」だと思います。机上の勉強でネットワークや支え合い、地域の活性化と言葉で理解はしているものの、地域で見る実情は大きく異なりました。地域に住んでいても知らなかった問題が多く存在し、そして、それに比例するようにたくさんの地域住民が活躍していることを知りました。**自分たちの暮らす地域をどうしたら住みやすい町にしていけるのか、課題をどう解決していくのか。主体となって行なうのは社協ではありません。私たち、地域住民なのです。**このことを理解し、地域を見ていくと、どれだけ地域の力が大事か、人と人とのつながりの重要性を再確認することができました。また、コミュニティワークを実践する上で、問題を掘り起し、どう住民に投げかけ、それを住民主体の取り組みにつなげるのか、援助者としての技術も学ぶことができました。

今回の実習で学んだことを糧として、就職先や地域において多くの方の支えとなることができるよう、今後も頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、学校生活最後の実習を終えて多くのことを学ぶことができたのも、ご協力いただいた地域住民の皆様、ご指導くださった実習先の職員方、先生方のおかげです。本当にありがとうございました。



- 10日(金) 3CP「卒研科内発表会」
- 11日(土) 建国記念の日
- 13日(月) 登校日、追再試補講期間(～23日(木))
- 18日(土) 第4回入学選考
オープンキャンパス 13:15-15:15
☆ 託児所：あり
- 21日(火) ケアスタディ発表会(～22日(水))
- 25日(土) 文化祭、卒展・科展
(発表 AM：電子、PM：福祉)



◆平成29年度学生募集

「後期AOエントリー」は2月27日まで!!

企画広報室 高橋 達也

2月になりました。暦の上では春になったものの、まだまだ寒い日が続いていますね。皆さん、健康管理はしっかりできていますか?インフルエンザもまだまだ流行していますので、手洗い、うがいを徹底し、年度末に向かう日々を後悔することのないよう、様々なことに励んでください。

この春卒業予定の皆さんは、もうすぐ学生生活の締めくくりです。学生生活最後の思い出を存分に作ってください。また、出身高校へ「内定報告」に行きましたか?皆さんの成長した姿を、恩師の皆さんはきっと喜んでくれると思います。

本学の素晴らしさは、皆さんが一番感じていることだと思います。本学で学んでいること、目指していること、何でも構いませんので、皆さんの後輩や本学を訪れている高校生に是非声をかけてください。皆さんの中にも「先輩の声」に勇気付けられ、本学入学を希望するきっかけになった方も少なくないはず。次は皆さんの番です!「挨拶を基調とした全人教育」の大切さ、「なりたい自分になる」ための学校であることは、経験している皆さんだからこそ伝えられることです。1人でも多くの方が中村学園の良さを感じ、仲間が増えたら嬉しいですよ。そして、中村学園の輪を更に大きく広げていきましょう!

来年度入学生のための、学校・入学選考説明会は下記の日程で行ないます。電子情報、福祉医療の希望者がいたら是非、「行ってみて!」と声をかけてください!!



平成29年度学生募集 入学選考日程

*後期AO入学選考

- ・エントリー期間：～ 2/27(月)
- ・選考結果：3/10(金)までに発送

*入学選考日

- ・2月18日(土)・3月16日(木)・3月31日(金)
- ※出願は各選考日前日15時まで

*オープンキャンパス、学校・入試説明会

- ・2/9(木) 17:00-18:30
- ・3/4(土) 13:15-15:45
- ・3/23(木) 13:15-15:45

*個別オープンキャンパス開催

電子メールで都合の良い日を連絡ください。

個別相談会
保護者説明会
同時開催

2月の行事

- 1日(水) 1CP「保育実習」I(保育所)(～2月4日(土))
オープンキャンパス 17:00-18:30
- 4日(土) ☆ 託児所：あり
- 6日(月) 授業・補講、後期試験・卒業試験
卒研・ケアスタ(～10日(金))
- 9日(木) 電子「ゼミ・卒研 学内発表会」
オープンキャンパス 17:00-18:30

★ 2CP 「保育実習Ⅳ」

・実施期間：1月10日(火)～1月23日(月)

『保育所実習で得られるもの』

子ども心理学科 学科長 後藤 明子



2年生の「保育所実習」は、1年次の同実習の反省を踏まえ、明確になった個別の課題をどのように習得するかを試すことができる。

保育士になるためには、保育所及び児童関係の福祉施設でそれぞれ10日間の実習を行なうことになる。この2度の実習を踏まえて、「保育士としての総括」となるのが、今回の保育所実習である。

この記事を書くにあたり、現3年生に「保育実習を通じて得られたこと」をヒヤリングしてみた。多くの意見としては、①年齢に合わせた関わり方や伝え方、伝えるべきことが理解できた。②教材研究の方法、制作を子どもたちと行なうときの留意点、遊び方の展開方法と提供の仕方に対する理解が深められた。③クラス運営等におけるリーダーシップの取り方と、子供たちがスムーズに生活を送る方法を学んだ。④想定外の動きに対する臨機応変さ、異年齢保育を行なう上での配慮、記録の記述方法の上達、などが挙げられた。

このことから、2度目の保育所実習では、単に保育技術の習得だけでなく、「子どもはどのような環境で成長するのか」、「保育士として、自らをどのような環境資源として使うことができるのか」を考える貴重な機会になっていることが分かる。保育実習を終えた学生が、人材から「人財」に成長してくれていることを切に願う。

乳幼児保育の奥深さを学び、実践しました。

子ども心理学科2年 西ヶ谷 幸

今回の実習では、乳幼児それぞれに合った声掛けや援助方法についての学びがたくさんありました。乳児クラスでの玩具の取り合いの場面で保育者は「順番に使おうね」の声掛けだけでなく、子ども達の今使いたいというお互いの思いを受け止め共感し、援助していました。「使い終わったら貸してくれる？」と子どもの気持ちに寄り添い声をかけることで、子ども達もお互いに納得し、順番を守るという思いが変わるのだと感じました。5歳児クラスでは、自分で今何をしたいのか考え行動できるように、「～してください」ではなく、「今、何をやる時間かな?」「時計を見てごらん」というような、子ども達の主体性を育てる声掛けを保育者から学びました。子どもの年齢によりその子どもの育ちに今何が大切なのかまで考慮して、援助していることを知り、乳幼児保育の奥深さを実感しました。また、室内遊びや戸外遊びをする中で自分がどの場所にいれば全体の子どもの姿に目が行き届くか考えながら一緒に遊ぶことの大切さも知



り、実践してきました。今回の実習の絵本・紙芝居の読み聞かせや部分実習で体験・認識した改善点を次の課題として、また年齢ごとの声掛けや援助方法の違いの学びを、来年の教育実習(幼稚園)に活かしていきます。

多忙な中、丁寧にご指導いただきありがとうございました。

たくさんあった「気づき」を次のステップにつなげていきます。

子ども心理学科2年 洞口 華南衣

今回の私の大きな目標は、学校で学んだ「保育技術」をどのように活かせるかを学ぶことでした。その目標を意識し観察することで、さりげない工夫や進行の仕方を子どもがやりやすいよう行なっていることを発見しました。そのため、保育者の真似をしつつ、その子どもにとってどのような声のかけ方がよいのか、伝えるばかりでなく一緒に考えられるような「声かけ」を行なうことが大切だと思いました。子ども同士のトラブルの際、うまく対応できないこともありましたが、子どもの気持ちに寄り添い、どうしたらよいか子どもと一緒に考えることができました。子どもと遊ぶ際の会話や子ども同士の会話も普段私たちがするものとは違って、小さな気づきや発見があり、友達作りから人間関係を育んだり、相手の思いを受け止めようと葛藤したり、大人とは違う視点でいつも過ごしているのだと感じました。その小さな気づきを大事にして、子ども達が今どのようなことに興味があり、そこから結びつく新しい展開を考えていくことが保育者に必要なことだと感じました。

お忙しい中ご指導くださった先生方への感謝の気持ちを忘れずに、この実習での学びを次のステップにつなげていきたいと思っています。



新任教員の紹介

★子ども心理学科 杉山 有美(第一ひかり幼稚園卒園児)

1月より、本学に勤務させていただいております杉山有美と申します。

保育園、幼稚園と長年保育の現場で勤務してきました。保育の仕事は大変なこともあります。今回、学生の皆さんと一緒に学ぶ機会を頂きましたので、現場での経験を活かし、みなさんの夢が実現出来るようにサポートさせていただきたいと思っています。

校長先生をはじめ、教職員の皆様、保護者の皆様、学生の皆さん、これからどうぞよろしくお願い致します。



◆自分史の振り返りを踏まえ、「自分の言葉」で

進路室長 橋野 幸男

3月1日は、経団連『採用選考に関する指針』における「広報活動」開始日。その日まで1か月を切りました。1月中旬のある日、何気なくJRの中吊り広告を見上げると、マイナビ、リクナビが県内で開催する「就活イベント」の案内が、競うかのように掲示されていました。また、昨年目立って増加した(県内)地域ごとの就職イベントに関しても、既に「磐田・袋井就職フェア」(4月8日開催)の案内チラシが届いています。ちなみに、昨秋、多くの商工会議所・商工会で新役員を選出がありました。静岡商工会議所・会頭がインタビューに応じて「商議所が“地域人事部”として機能できればと思う」と述べているように、「人材確保」が地域経済団体にとって主要課題になっています。更に、次年度卒業年次向けの求人票や「1day インターンシップ」などの案内も、昨年暮れから前年度のペースを上回って到着しています。

いよいよ、「2018/3 卒」の採用活動が本格化します。皆さん、就活に向かう気構えはできていますか。「人手不足経済」や「売手市場」などの言葉をよく目・耳にするとと思います。しかし、安易にとらえてはいけません。「席はあるのに入れない?」(人材研究所・社長 曾和利光氏)、「売手市場」と呼ばれるような、誰もが簡単に内定をもらえる状況とは言えない。ここ数年、企業には将来を担う新卒者の基準を下げてまで人数を確保する傾向はあまり見られないからだ。就職しやすい環境であっても、きちんと準備することが必要だ。(リクルートワークス研究所・主任アナリスト 戸田淳仁氏)というコメントがあるように、企業・施設などにはそれぞれ採用基準があり、また、志望先を同じくするライバルが存在するのです。この点を十分に銘記してください。

ここで、「静岡新聞」の読者投稿欄「ひろば」から、皆さんのライバル・21歳大学生の意見を紹介します。1月18日に掲載された『就活では自分の言葉で表現』です。

—— 3月からの就活を前に自分の強みは何だろうと考えてみたが、行動力や積極性といった誰でも思いつく言葉しか浮かばない。/ 昨年の秋参加した企業懇談会でも、人事担当者の方が、最近の就活生は皆同じことを言うので特徴がない、とおっしゃっていた。確かに行動力や積極性などと言っても自分を印象付けられるとは思えない。使い勝手の良い言葉は便利だが、就活では役に立たない。/ そんなときある授業で学んだ「自分の言葉で表現する大切さ」を思い出した。自分の体験談をもとに想像を膨らませ、表現する言葉を考え抜いた。積極性を「がむしゃらに物事に向かっていく力」などと定義してみた。すると自分の言葉で表現することにより自信を持ち、口に出すことができる。他の人とは違った個性が出てくる。<以下、略> ——

彼の「がむしゃらに」を証明するエピソードを確認し、その「がむしゃら」そのものや、がむしゃらに取り組んだことで得た力などをわが社でどう活かすか貢献してくれるのか、更に、今後どう「がむしゃらに」成長していこうと考えているのか、人事担当者は聞きたいと思うでしょう。

皆さんも、これまでの学生生活の成果と「プロセス」を振り返り、身に付けた「強み」を「自分の言葉」で表現してください。

